



脳科学からアプローチ

実践コミュニケーション術 ①

※373号から3回にわたってご紹介します。



黒川 伊保子 氏

株式会社感性リサーチ 代表取締役社長／感性アナリスト。1983年奈良女子大学理学部物理学科卒、富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー入社。人工知能エンジニアとして脳と感性の研究を始める。2003年世界初の語感分析法サブミナルインプレッション導出法を発表。商品名の語感分析サービスを提供する株式会社感性リサーチを設立。独自の感性分析術が注目を浴び、感性研究の第一人者となる。2016年より明治大学スマートキャリアコース講師。近著に『日本語はなぜ美しいのか』（集英社新書）、『英雄の書』（ポプラ社）、『恋愛脳』『夫婦脳』『家族脳』（新潮文庫）など。

株式会社感性リサーチ <http://www.kansei-research.com/>

ここが違う! 男性脳と女性脳の仕組み

● 脳の違いを知ればコミュニケーションも円滑に

夫婦関係や恋人同士など男女間では時として様々な軋轢が生じます。それはビジネスでも同様。互いに男性、女性を意識して働いているつもりはなくても、「だから女性は……」「なんで男の人って……」と、異性のビジネスパートナーにイライラを感じてしまうことはありませんか？

実はそうした状況が生じてしまう理由の一つとして考えられるのが、男性と女性の脳の仕組みの違いです。脳を装置に見立てると、男女の脳は回路の形と信号特性が異なります。当然、同じ入力に対してまったく違う出力がされることになり、予想に反した相手の対応に戸惑い、すれ違いを感じるのです。しかし、この脳の特性の違いを知れば、異性の行動や言葉への理解が深まり、コミュニケーション力がアップして、仕事や人間関係もより円滑になるはずで。

● 男女の考え方の違いを生む脳の仕組み

男と女の脳の違い、それは右脳と左脳の連携の頻度と密度の違いです。人間の脳は右脳と左脳、左右ふたつに分かれた半球がそれぞれ異なる役割を持っています。

右脳の特徴は「感じる力」。動物が生まれつき高度に持っている能力で、外界認知、危険察知、獲物感知、生殖相手の選別、心地良いと感じる力、イメージ力などです。

左脳の特徴は「考える力」。“意識してやっている”脳活動のほぼすべてはこちらです。言語活動や論理・数値計算、戦略立案、モデル構築、やせ我慢などです。

右脳と左脳はそれぞれの役割を果たしながら、神経線の束を介して連携しています。この神経線の束を脳梁といいます。一般的には女性の脳梁は男性よりも太くできています。男性脳と女性脳、その大きな違いはこの脳梁の太さの違いによるものと考えられています。

● 「感じる」女性脳と「客観力」の男性脳

脳梁が太い女性脳は右脳と左脳がよく連携するため、感じたことを知覚しやすく、目の前をつぶさに観察して、わずかな変化も見逃さない“察し”の能力に長けています。直感や偶然を引き寄せるのも、実はこの能力によるもの。また感じたことを瞬時に記号化できる女性脳は、自ら感じ、共感して得た情報を検索キーにして蓄積します。例えばつま先の尖ったパンプスは階段の滑り止めに引っかかるなど、ちょっとしたおしゃべりの話題も記憶し、同様の靴を履いた日には無意識に手すりの脇を行くなど、その場の状況に応じた見事な臨機応変力を発揮します。

一方、脳梁が細い男性脳は、右脳と左脳の情報が混在しにくいいため、自らの実感を介入させずに脳の一部をフル回転させることができます。一つのことを極め、集中力を維持して物事に取り組むマニアックな機能性を発揮するのが得意な構造です。また奥行き認識が鮮明で空間認識力にも長けています。複雑な図面を読み、飛行機を飛ばし、高層ビルを建てる。客観的な判断をし、大きな世界観を構築できるのが男性脳です。

● 環境によっても脳の特性は変化する

ここで一つ付け加えておきたいのは、性別だけが男性脳と女性脳を持つ要因ではないということ。たとえば生まれつき脳梁が太めの男性もいますし、両脳連携が悪い女性もいます。脳の信号特性は性別だけでは確定できないもので、働く環境や生活環境、生来の気質傾向などから、男性よりも男性脳型の女性もいるし、女性よりも女性脳型の男性もいます。個人差はあるものの、一般的にはこうした男女の脳の違いを理解しておく、今まで悩んでいた異性とのコミュニケーションも腑に落ちることがたくさんあります。

次回374号からは具体的な例を挙げてご紹介します。

ありがとう

感謝します

語感ポイント ① 温かな母音、威嚇の子音

私たちが何げなく発している言葉。その言葉の持つ音から受けるイメージ＝語感は、相手の脳に大きな影響を及ぼします。例えば母音が響く言葉は親しみと情を掻き立て、子音が響く音は威嚇や距離を感じさせます。

「ありがとう」「がんばろう」など、一般的

に訓読みの大和言葉は母音が響きます。それに対して漢語由来の「感謝します」「期待してるよ」など、音読みの言葉は子音が響きます。仕事の打ち上げや休憩時間のおしゃべりで、その場の雰囲気や相手との関係を穏やかにしたいときは母音が響く訓読みの

言葉がなじみます。逆に会議などの緊張感を持ちたい、相手との距離をしっかりとりたい時には、音読み言葉を使うと良いでしょう。

女性上司が部下を激励するとき、あえて子音が響く音読みの言葉を使うと、空気がピシッと締まり、感じの良い雰囲気になります。